

課題に取り組み積極的に生きてゆく力を鍛える授業展開

総合的な学習の時間 藤井 宏明

1. 主題設定の理由

①これまでの流れについて

本校では、総合的な学習の取り組みの中で、平成16年から市民性をはぐくむ授業を始めた。中学校3カ年のカリキュラム構成としては、まず1年次で自分たちの住む地域や国を学ぶことにより、自分たちが暮らす地域の特徴や日本と海外の違いについて知る。2年次では、日本人のアイデンティティを海外へ発信することができるよう、日本の伝統文化について学習する。3年次ではアジア圏を念頭に置いた国際交流を目指すという枠組みとなっている。この3カ年を通して国際的な発進力のある生徒を育てよう取り組んできた。そのほか、総合的な学習の時間を通じて人権学習や平和学習などについても取り組んできた。この流れは現在の「総合的な学習の時間」においても継続されている。

②現在における課題と本校の取り組み

昨今、登下校中の子どもが巻き込まれる交通事故や東日本大震災及び台風・集中豪雨等による自然災害、さらには、学校内外における不審者による子どもの安全を脅かす事件が発生するなど、学校や周辺地域における子どもの安全の確保が喫緊の課題となっている。

平成20年度の中教審の答申では、安全に関する学校に求められる役割として「各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など学校の教育活動全体において行われる総合的な安全教育によって、児童生徒等自身に安全を守るための能力を身に付けさせることである。」とされていた。さらに、平成24年には「学校安全の推進に関する計画」を閣議決定され、地域ぐるみで子どもの安全を守る環境の整備を推進するとともに、子どもが自ら安全な行動をとれるよう安全教育を支援するなど、学校安全の取組を推進しているところである。

以上の流れを受けて、近年子どもの安全を脅かす自然災害や事件・事故や、ネットワーク環境の発達など、社会環境の変化によるリスクに対応するため、総合的な学習の時間や生徒会活動を通して、安全教育の充実をはかり、学校全体としてはISSの認証を目指して学校安全に対する取り組みを行ってきた。

2. 単元設定の理由

いわゆる安全への取り組みは小学校から様々な視点で取り組まれている。小学生の生活の中心は、地域を離れた学校へ通学するケースをのぞくと、居住地区の校区が主な活動範囲であることが多い。このため、小学校段階の安全への取り組みは、通学路を含めた学校安全、地域レベルでの生活安全、災害安全等が主な取り組み例ではないだろうか。しかし、中学生から高校生へと年齢を重ねるにつれて、生徒の活動範囲は広がり、数駅先の塾や習い事へ通ったり、梅田などの繁華街に娯楽に行ったりする機会が増えてくる。これらの活動の多くは保護者をとともわず、単独あるいは友人との行動となる事が多い。このため、中学校での安全に対する指導は小学校での基礎的な知識や考え方を基に、保護者のいない、校区外で危険に遭遇した場合の判断力や行動の基となる知識や考え方の獲得が必要である。

地域の災害について目を向けると、近年の代表的な自然災害のなかには、平成25年に起こった大雨に起因する伊豆大島の土石流や、本年度に起こった長野県南木曾町や広島市の土石流による災害は記憶に新しいのではないかと思う。伊豆大島や南木曾町は災害史的な視点から、災

害の起こる可能性を想定することが可能であったにもかかわらず、大きな災害に結びついてしまった。このように、我々が直面しうる災害には、海溝型巨大地震のみならず気象による災害等、様々な自然災害が存在する

この中で、災害時に自分の命を守る判断を行わなければならないのは、自分自身である。その判断を行うためには、ある程度の災害についての知識を身につけ、その知識に基づく判断力を養う必要がある。そこで、子どもたちが生活する阪神間の災害を調べ、自分たちの行動範囲で発生する可能性がある災害を、ハザードマップを中心としたデータや情報を通して検討を行い、災害に対する姿勢を養うとともに、自宅から出先の中で起こりうる災害に対して考えたり、備えたりするための知識を養い、災害発生時の判断力を育成する基となる力を養いたい。

3. 実践の概要

① 対象学年 2年

② 単元の目標

- ・自分たちの住む地域や行動範囲内で起こる災害について考えようとする姿勢を養う。
- ・自分たちの住む地域や行動範囲内で起こる災害について理解する。

③ 評価規準表

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分たちが遭遇する可能性がある災害の情報を基に他者と交流し、意見を述べようとしている。	災害に備えて、情報収集を行い、その情報に基づいて行動することができる。	災害に備えて様々な情報収集を行うことができる。	様々な場所で想定されている災害リスクについて知る。

④ 指導計画（全5時間）

- 1次 班分け及びハザードマップなどデータから各地域の災害を調べる。(2時間)
- 2次 地域ごとの災害リスクを調べたものをグループ内で発表し、地域ごとの共通点と、相違点について着目しながら班のまとめを行う。(1時間)
- 3次 校区内の地区ごとの災害リスクについて発表し、地域ごとの災害リスクを知るとともに、自分なりに災害から身を守るための課題や問題点について考える。(1時間/本時)

⑤ 本時

(1) 目標

- ・自分たちが生活する地域で災害に備えてどのような対策が必要かを考える(思考・表現)。
- ・自分たちが生活する地域でどのような災害リスクがあるかを知る(知識・理解)。

(2) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点
導入	1. 自分たちの学校の校区や普段行動する地域の確認を行う。 2. 行政区画や所在地から分けたグループを確認する。	○地図を提示しながら生徒手帳で校区を確認するとともに、日常生活の中で行動する場所についての発表をもとめる。	

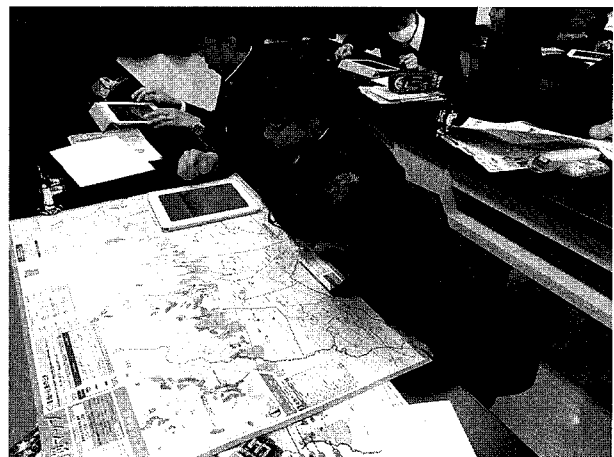
<p>展開</p>	<p>3. グループごとにどのような防災情報が、その中で示されている災害情報にはどのようなものがあるか発表する。</p> <p>4. 地域ごとにどのような災害リスクがあるのかワークシートにまとめる。</p>	<p>○事前に発表原稿や、割り当てを確認させておく。</p> <p>○ハザードマップを含む自治体ごとの防災情報の中ですぐれた点などについては触れるようにする。</p> <p>○避難所等、災害に対しての対応法を念頭に置きながら、自分なりに問題点や課題がないかという視点を持ちながら検討できるようにする。</p>	<p>・災害情報をつめ、その情報を分析することができたか【思考・表現】</p> <p>・地形や所在地ごとの災害リスクを把握し、まとめることができたか【知識・理解】</p>
<p>まとめ</p>	<p>5. 本時の振り返り 自分たちが住む地域にはどのような災害リスクがあるか確認し、普段の生活の中でどのような点に留意しなければならないか考える。</p>	<p>○自分の毎日の生活がどのような行動範囲かを考えて、その地域内災害に備えるための具体的な行動を考える。</p>	<p>・災害に対する備えを考えたことができたか【思考・判断】</p>

3. 成果と課題

図に生徒が調べた割り当て地域のまとめ(PowerPointの試料)の一例を示す。この班のまとめに見られる要素は、他の多くの班にも見取ることができたので、この班のまとめを元に、分析を行う。図に見られるように生徒は各地域のハザードマップを各自治体から取り寄せて調べ学習を行った。この活動により、主体的に行動計画を立て、自治体の担当部署とコミュニケーションを図ることにより自ら学び取る姿勢を養うことができた。また、この際、自治体担当者から聞き取りを行った意欲的な班も見られた。また、スライドの中に見られるように、ハザードマップから得られた情報に対して、自分たちの解釈や意見を加え、災害リスクにたいして、分析する姿勢を見取ることができた。また、まとめを行う際に、地理的な情報に基づいて分析するように指導を行ったところ、

スライド4~9に見られるように、地形や人口分布など地理的要素に基づいた分析を加える事ができた。また、スライド11や15に見られるように、災害に対して自助・共助・公助の視点や災害に対する自らの姿勢が重要であることに触れており、他の班のまとめでも、個々の災害について、避難所の確認や、普段からの災害対策の物品の準備、自宅の家具など備え、津波が起こった際の対応など災害に対しての備えについて触れており、生徒の多くは災害に対する備えについて考えることができていたと考えられる。このほか、感想などでは、家族との話あいや情報交換の重要性について触れている班もあった。このため、小中高と発達していく中で、高等学校段

ハザードマップをもとに調べる iPad にまとめる

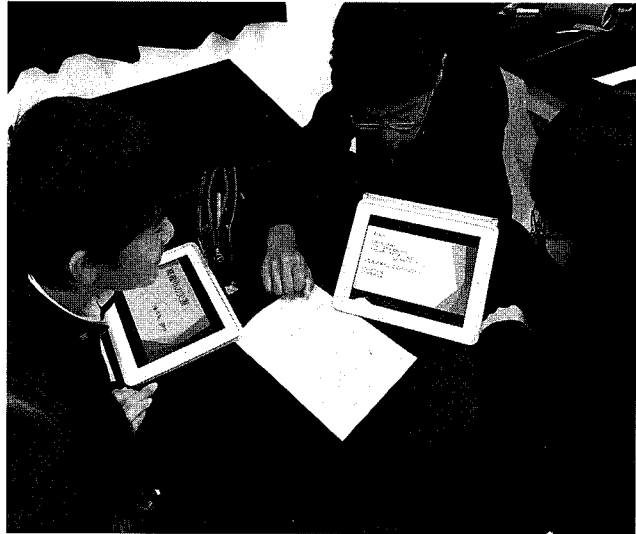


このほか、感想などでは、家族との話あいや情報交換の重要性について触れている班もあった。このため、小中高と発達していく中で、高等学校段

階で様々な「知」を発信していく人物となるための基となる発信していこうとする姿勢を生徒の中に養うことができたと考えられる。以上から、今回の一連の学習において災害に対する意識を高めるとともに、自分たちの生活する地域の中で様々な種類の災害リスクを知り、そのことについて、自分なりの評価を行い対策について考えることができた。

課題としては、授業の運営上の問題(人数割りの都合)で、自分の住む地域や行動地域を調べることができず、近隣地域を調べた生徒も多く存在し、厳密な意味での自分の生活範囲を調べることができない生徒が多数存在した点があげられる。しかし、授業内容レベルでは発表形式をとることで、調べた内容を共有化し、自分の住む地域についての災害リスクについて知ることができた。さらにワークシートにてそれらの情報に対しての考察で対応を行った。

災害リスクを調べた結果の発表



プレゼンテーションを聞いた後のワークシートによるまとめの例

身近な災害リスクを考える～ハザードマップを活用して～
2年 A組 番氏名 []

1. 近くの校區

2. 自分が普段行動したり、通学や習い事で通ったりする自治体にはどのような自治体があるだろうか？(例 ダンスの練習→〇〇市、〇△市 通学→豊中市、池田市)

豊... 池田市
通学... 川西市・池田市
大会... 豊中市・うめだ
ユニバーサル...
買い物... 西宮市・宝塚市
猪川町・うめだ
花が市

3. 身近な地域(隣の校區)にはどのような災害に対する資料が用意されており、災害にはどのようなものが想定されているかまとめるとともに、災害に対する留意点(問題点や注意点など)をまとめよう。特に、自分の行動範囲で起こる災害に対しての避難所や対処法がわがれが質問してメモしておこう。

伊丹... 全体的には15L9L
避難所がたてんある→1時間以内。
猪川... 自主防災隊員(18名位いたる)
洪水... 高いところへ
土砂... 高いところへ逃げる。
津波... 地がが... 高い場所へ逃げる
地震... 避難所へ行ったり、防災マップをよく見て、意識を高める。

最後にハザードマップはクラスごとに保管して、生活の参考にしましょう。

身近な災害リスクを考える～ハザードマップを活用して～
2年 A組 番氏名 []

1. 近くの校區

2. 自分が普段行動したり、通学や習い事で通ったりする自治体にはどのような自治体があるだろうか？(例 ダンスの練習→〇〇市、〇△市 通学→豊中市、池田市)

池田市-豊中市
豊中市-高槻市
通学 豊中市-池田市

3. 身近な地域(隣の校區)にはどのような災害に対する資料が用意されており、災害にはどのようなものが想定されているかまとめるとともに、災害に対する留意点(問題点や注意点など)をまとめよう。特に、自分の行動範囲で起こる災害に対しての避難所や対処法がわがれが質問してメモしておこう。

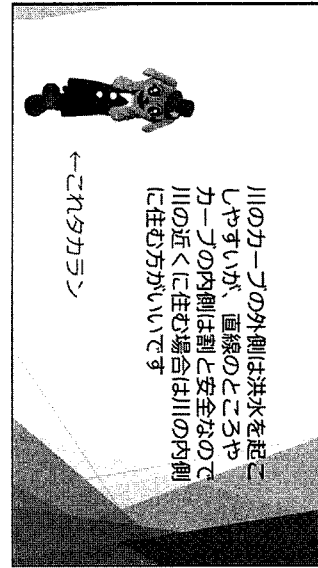
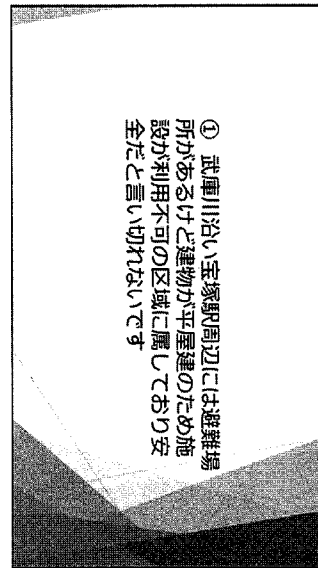
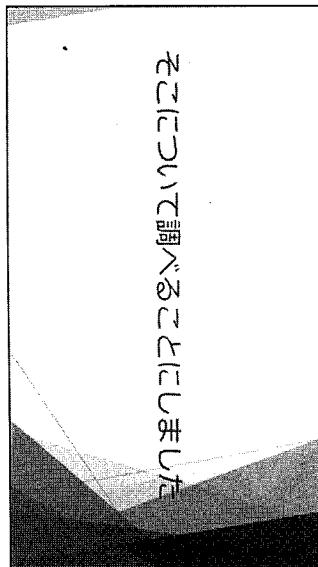
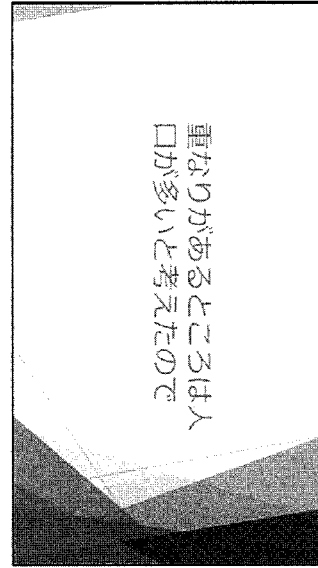
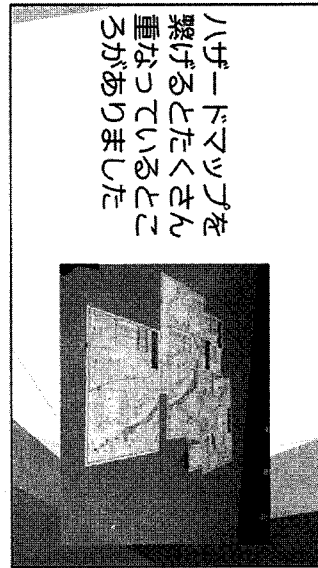
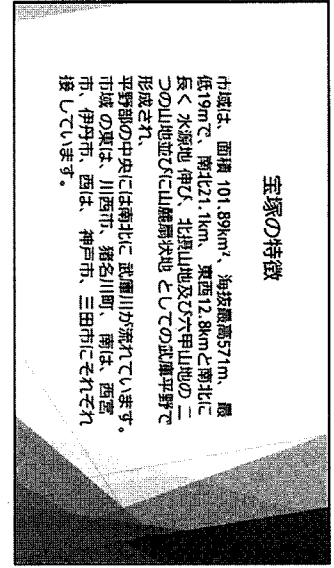
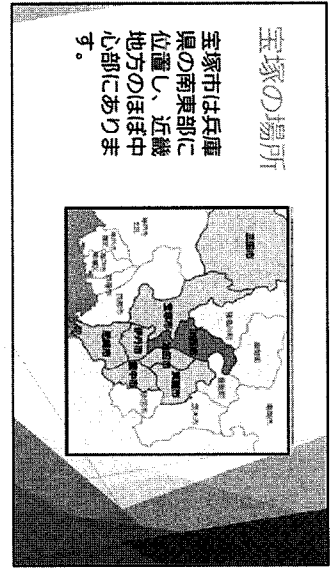
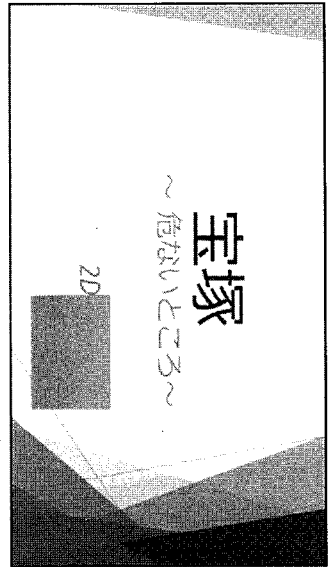
川の近くでは例え避難所でも危ないことわかった。
(小学校、中学校など)
ハザードマップは須木市たてた地震マップ、吹田市たてた
洪水マップというように、災害別で作られていることわかった。
自分の家から一番近い避難所を調べた。
思った。

4. 普段の生活の中で自分がどのような災害時の危険に遭遇する可能性があるかまとめ、その災害が発生する可能性がある場合はどのように対処したらよいかまとめよう。

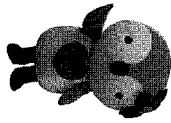
地下鉄ののりる時に地震があつて浸水する危険は
考えたことがわかった。

最後にハザードマップはクラスごとに保管して、生活の参考にしましょう。

以下、生徒のハザードマップを用いた調べ学習のまとめの一例



平井車庫付近の危ないところ



平井車庫付近には寺
畑前川と最明寺の川
に挟まれてて洪水に
なりやすい
また枝分かれして
るところはさらに危険

まとめ

大切な命を守るためには自助をする
ために地域の水害について知りまた
災害、被害情報の収集などを
共助をするために地域とのコミュ
ニケーションをとる
公助をするために避難所などの整備
を整える
この3つが揃ってこそ私たちの安全
は守られると思います

感想

私たちはこの学習で避難所だ
けでなく、自分たちの心気
も大切であると感じました。
常にどんな危険があるのか
考えてまずは、自助からそし
て共助とまずは心構えを変え
ようと思いました